

千葉県で見られるハムシ

ハムシは主に植物の葉を食べて生活する小さな甲虫です。体色や形態は非常に多様で、鮮やかに輝くものや体の一部が透き通っているもの、他の昆虫にそっくりなもの等があります。日本には約660種が生息するとされ、今号では県内で見られる9種のハムシを紹介します。写真左上は撮影者の団員番号、右下の数値は体長です。種名の横の記号は千葉県レッドリストのランクです。



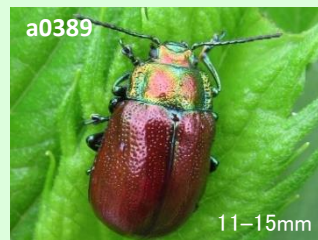
ジンガサハムシ

楕円形のハムシで、成虫は4-9月に、ヒルガオ類で見られます。生きているときは体の一部が透明で、中央部は黄金色に輝きますが、死後にはその輝きを失ってしまいます。



コガタルリハムシ

成虫は3-7月にギンギシやイタドリ等で見られます。体色は全体的に黒青色をしています。平地から山地にかけて、畑や草地、道ばたなどで見られます。メスはお腹が大きく膨らみます。



オオルリハムシ (B)

成虫は4-10月に、シロネやクルマバナ、エゴマ等で見られます。体色は地域によって大きく異なり、金緑色から紫青色の個体があります。千葉県では、主に写真のような赤っぽい個体が見られます。



カタクリハムシ

成虫は4-6月にオニユリやオオウバユリ、ホトギス類等で見られます。体色は全体的に赤褐色をしており、上翅には多数の点刻が列状に見られます。



ウリハムシモドキ

成虫は5-10月にかけて、マメ科植物等で見られます。体色は全体的に黄褐色をしています。上翅が全体的に黒色の個体も見られ、体色には大きな変異が見られます。メスはお腹が大きく膨らみます。



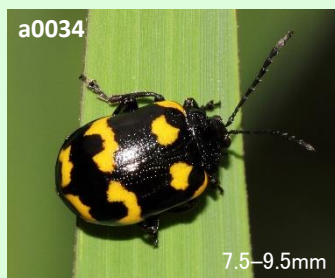
アカガネサルハムシ

4-7月にかけて、ノブドウやエビヅル等で見られます。平地から山地にかけて、主に林縁で見られる普通種です。体色は全体的に金属光沢のある緑色で、上翅には赤銅色が入ります。



ハッカハムシ

成虫は4-10月にハッカやシソ等で見られます。全体的に光沢のある金銅色をしており、上翅には丸い隆起が列状に並びます。中には、全体的に青味がかった個体も見られます。



イタドリハムシ

成虫は3-9月にかけてイタドリやオオイタドリ、スイバ等で見られます。黒字に橙黄色の模様が入りますが、この模様には大きな個体変異が見られ、より赤色味が強い個体も見られます。



クロボシツツハムシ

成虫は4-7月にナシやクヌギ、クリ等によく見られます。上翅は赤地に6個の黒紋が見られ、テントウムシに擬態していると考えられています。平地から山地にかけて見られる普通種です。

参考文献

尾園暁. 2014. ハムシハンドブック. 文一総合出版.

梶真史. 2013. ポケット図鑑 日本の昆虫 1400 ② トンボ・コウチュウ・ハチ. 文一総合出版.

最新の生物多様性に関する情報や各種講習会の情報は当センターと調査団のホームページをご覧ください

調査団 : <https://www.bdcchiba.jp/monitor-index> と生物多様性センター : <https://www.bdcchiba.jp/>



古典文学と里山の生き物たちの世界

第十七回 ホトトギス

Cuculus poliocephalus カッコウ目カッコウ科

詩人 大島 健夫

日本の古典文学には、様々な生き物たちが様々な形で登場します。かつてこの国の人々はどのように生き物とかかわり、その姿に何を見ていたのでしょうか。この連載では、生物多様性センターに勤務している、ポエトリー・スラム W 杯日本代表詩人の大島健夫が、^{いのち}生命のにぎわい調査団の皆様を過去の世界にご案内します。

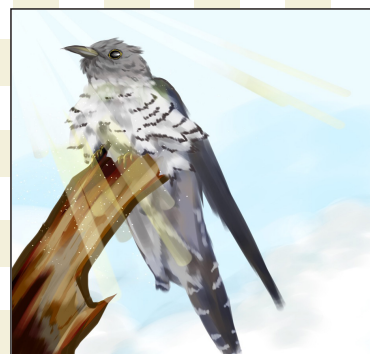
さらぬだに 打ちぬる程も 夏の夜の 夢路をさそふ ^{ほととぎす}郭公かな (お市)
夏の夜の 夢路はかなき 跡の名を 雲井にあげよ ^{やまほととぎす}山郭公 (柴田勝家)

1583 年 6 月 13 日。豊臣秀吉の軍勢は、^{えちぜん}越前国 (今の福井県) 北の庄城を取り囲んでいました。

城に立て籠もっていたのは、織田信長の筆頭の重臣であった柴田勝家。信長死後の勢力争いの中で秀吉と対立し、旧・信長家臣を二分した賤ヶ岳の戦いで秀吉に敗れ、北の庄に逃れてきていたのです。もはや城を守る兵はわずかでしかなく、援軍の来るあてもありません。運命が尽きたことを悟った勝家は、この日の夜、最後に残った一族郎党を集め、別れの酒盛りを開きます。勝家は、妻・お市に、城を出てゆくように勧めました。お市は信長の妹で、しかも秀吉は彼女に好意を抱いていたと言われていましたから、助命されることは確実でした。しかし、お市はきっぱりとそれを断り、「さらぬだに……」から始まる、上の一句を詠んだのです。

もう寝る頃になりました、この夏の夜にホトトギスが夢の世界に誘っていますね、というその句に、お市が生き延びようと望んでいないことを知った勝家は、「夏の夜の……」から始まる句を返しました。

ホトトギスよ、この夏の夜の夢のようににはかない私たちの名を、どうか雲の上まで運んでくれ……。



作 齋藤倫瑠

宣教師の日記に「日本で最も勇敢な人」とまで書かれる一方、部下思いの優しい性格でも知られた勝家と、同時代の様々な記録に「天下一の美人」と記されながら、前夫・浅井長政を兄である信長の手によって討ち取られるという苛烈な人生を歩んだお市。よく通る声とともに高い空を飛び、夏鳥として南の国から日本にわたってくるホトトギスは、二人にとって、あの世とこの世を行き来する使者だったのでしょうか。もし戦乱の世でなかったら、二人にはどんな出会い、どんな老後があったのでしょうか。

翌朝未明、秀吉軍の総攻撃が始まりました。凄惨な戦闘の末、勝家は天守閣の最上段に現れ、取り囲む秀吉軍に「わしの腹の切り方を見てよく勉強せよ」と呼びかけます。その姿に秀吉軍が声を失い、静寂が訪れる中、勝家はお市を一刺しに刺し殺すと、十文字に腹を切ったのでした。

<これからの季節に観察できる生きもの>

○調査対象種：セミの仲間、ヒガシニホントカゲ、カワセミ、サワガニ、ヤマユリなど

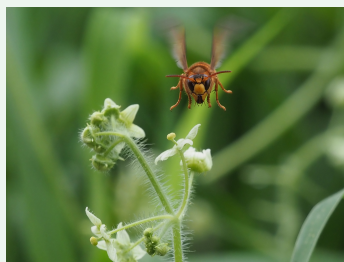
○調査対象種以外

- * 渡りのシギ・チドリ類、サシバなどの猛禽類
- * 各種昆虫、両生類、爬虫類など
- * 希少生物 (生息地・生息数が減少している生物)、外来生物の報告も受け付けています。

調査対象種以外は種の同定が難しいため、できるだけ写真の添付をお願いします。

<令和 3 年度 生命のにぎわい写真コンテスト結果報告>

団員の皆様の応募作品 41 点から最優秀賞と優秀賞が決定しました。



【最優秀賞】 和田 信裕
「アレチウリの花にキイロスズメバチ」



【優秀賞】 幸 香代子
「カタツムリの点々」